

2021年積雪期ガイド研修

～鳥取県伯耆大山～

日時：2021年2月8日～9日
場所：鳥取県 大山とその周辺
参加者：佐藤孝雄 越智清加 大崎吉晃

今年も期待した積雪は四国にはあまりなく、確実に積雪期登山が可能な鳥取の大山にて、親睦登山を兼ねてガイド研修を行いました。



大神山神社にて

初日は善通寺に8時に集合し、11時ごろ大山麓の宿に到着。
そのまま準備をして大神山神社近くの樹林帯で研修を行いました。

内容としては、

ショートロープ技術、顧客が登下降する際のロープ確保技術、
コンティニューアスで行動する際のロングロープ
雪上歩行技術（ダイアゴナル、スリーオクロック、ナインオクロックなど）
ブーツのエッジを使った足場作りなどを行いました。



この奥の林の中で研修を行いました

宿に戻ってからは夕食と入浴以外の時間を使って基本的なロープワークの反復練習や確認などを夜まで行いました。

国際山岳ガイドの角谷氏が会長を務める日本プロガイド協会のメンバーも研修で偶然同じ日に宿泊しており、短いながら交流することもできました。



2日目は大山登山です。
朝6時半ごろ宿を出発し登山口へ。



朝の気温はマイナス2度



夏道登山口の積雪はこれくらい。
スノーシューの先行者が一名。
その後を我々三名がトレースする。4合目付近
で先行者を追い越し、ラッセル混じりの尾根を
トップを交代しながら登る。



終始視界はこの程度で、
目印のポールを探すのに時間がかかる状況でした。



11時ごろ山頂到着。風も強く視界はゼロ。
山頂はこの時点で我々と登山口で先行していた
ソコの男性の四人だけでした。



山頂避難小屋

ソロの男性と四人で
入口の除雪作業をしてやっと中へ。
時計は11時30分ごろ。
室内の温度は約マイナス3.5度でした。
昼食をとり12時に小屋を後にして、下山に取り掛かります。

下山し始めて
これから山頂に向かう登山者と多数すれ違うようになりました。
みなさん遅めの出発のようです。

6合目避難小屋からはソロの男性と別れ、
佐藤ガイドの提案で夏道を離れ避難小屋直下から東斜面を
元谷に下山しました。



ここ数年四国ではなかなか味わえない量の雪に包まれた樹林帯の中を
各々が前日から降った新雪に足を沈めながら谷へおりて行きました。



越智ガイドがシリセードを試みるも、ふかふかで進まない。
遠くの方に、下って行く佐藤ガイド。

改めて感じたのは、
四国の人間にとって鳥取大山は、
雪を知る上でとても貴重な存在だということでした。
今後も定期的に雪上での研修を行なっていきたいと思います。
